

会 報

2021年2月号

東京アルコウ会

三保の松原より富士山を望む

◆ 2月集会 中止

◆ 2月委員会

期日 2月28日(日) PM7:30～

於 Zoomによるオンライン会議

議題 山行他の活動再開について、都岳連関連、
100周年関連、他

◆ 3月集会、委員会 3月28日(日) 予定

待ち遠しい山行再開

(記 久住)

コロナ禍で山行を自粛している中で、2018年春に当会に入会以来参加した山行記録を纏めてみました。この間に当会で実施した山行の1/3程に参加させて頂きました。

山行経験が殆ど無かった私は、企画して頂いた各山行計画の中から厳しくなさそうな、且つ、コースタイムの短い以下の山行を選んで参加致しました。各山行ではリーダー及び参加者の皆さんと親しく交流出来、それぞれの山の景観と共に良い思い出として心に残っています。

思い返せば、膝痛による空白期間及び新型コロナ感染に伴う山行自粛期間を除いても2年半程で30回もの山行に参加させて頂きましたことを企画頂いた各リーダー、及び同行者に感謝の気持ちでいっば

いです。

コロナ禍による自粛が解けて、一日も早く皆さんと一緒に山行を再開出来る日を待ち望んでいます。

<2018年>

- 1 丹沢山塊 南端 高松山
- 2 奥武蔵 北向地藏
- 3 南アルプス前衛 楡形山
- 4 奥多摩 棒の折山
- 5 日光山塊 中禅寺湖畔 半月山
- 6 お月見山行 (奥多摩 御岳山・日の出山)
- 7 奥多摩 深山橋周辺・奥多摩むかし道
- 8 奥多摩 笹尾根/丸山

<2019年>

- 9 奥多摩 御前山 (都岳連/自然保護指導員講習)
- 10 高尾 草戸山
- 11 奥武蔵 大霧山及びその周辺 (雨の為、中断)
- 12 御坂山山塊 河口湖東武 三ッ峠
- 13 奥多摩 大塚屋か・御岳山・日の出山・高峰
- 14 奥武蔵 大霧山及びその周辺
(No.11 山行の再チャレンジ)
- 15 富士吉田 杓子山
- 16 高尾 景信山・城山・高尾山
- 17 奥多摩 三頭山とその周辺
- 18 秩父 竹寺・子の権現
- 19 藤野の里山
- 20 南足柄山系 金時山
- 21 印旛沼周辺ハイキング
- 22 奥武蔵 越上山・顔振峠・黒山

<2020年>

- 23 東京湾岸ハイキング
- 24 奥武蔵 大棚山・日向山
- 25 奥多摩・三頭山
- 26 上野原・奈良倉山、鶴寝山
- 27 大多摩ウオーキング・トレイル (鳩ノ巣溪谷)
- 28 中央線沿線・扇山
- 29 長瀬・宝登山
- 30 丹沢山塊・大山

随想

山に親しみ山に想う (33)

—セミ捕りの思い出—

(記 岡本)

小学生の頃、夏休みに山陰の田舎で従兄弟とともにセミ(蝉)捕りを楽しんだ。その頃関西にはアブラゼミ(油蝉)が多く、セミと言えばアブラゼミを意味した。最近山歩きを始めてから気付いたことは、関東で聞くセミの鳴き声の種類と関西のそれとに違いがあるように思えることである。温暖化が原因なのか、西のセミが東漸しているように感じている。



セミの雄は樹木の幹に留まって鳴いているので、どの樹木にセミが留まっているかは簡単に知れるが、木肌と同じような茶褐色をしているアブラゼミを見つけるには、ジーッと注意深く探す。まず、樹木の幹の正面を凝視し、樹の端の線(空間と接している樹の端の線の部分)に瞳を凝らす。幹の正面に留まっておれば、セミの全体の姿が見える。樹の端の線におれば、横からの姿がシルエットのように見える。幹の正面と樹の端の線に瞳を凝らして樹木をゆっくり一周すれば、セミを発見できるはずだ。枝の部分にも留まっていることあるが、概ね幹にいる。

見つけたら、捕獲にかかる。王道は捕虫網で捕

る(竿の長いものが良い)。セミが飛翔するのは、樹木から樹木への短距離を瞬間的に移動する際である。この飛翔するセミを捕るのは至難であり、自分も飛ぶセミを捕ったことはない。樹木に留まっているセミを捕虫網で捕らえるのだが、幹のセミに網を被せても、丸い幹と平らな輪っかの網との隙間から逃げられることが多い。運良くセミが網の房の方に飛んでくれると、捕獲できる。捕虫網を使う場合には、隙間から逃げにくいように大型の網でなく、小型の網で輪っかを楕円形に曲げて使うと捕獲率が大きく上がる。トンボ(蜻蛉)捕りは大型の網、セミ捕りは小型で楕円形の網が適当である。

セミがクモ(蜘蛛)の巣に掛かっているのを見たことがあるでしょう。従兄弟達と一緒に「クモの巣に掛かったセミ」をみて編み出した「クモの巣輪っか」で遊んでいた。まず、3m程の長い竹竿を求める。節の先の穴に、直径30cm程の円形に曲げた針金の両端を差し込んで輪っかを作る。金魚すくいの輪っかのように。その輪っかの部分にクモの巣を絡めるのだ。「クモの巣輪っか」を幹に留まっているセミの背中に軽く押し当てるだけでセミを捕ることができる。子供達が数人、グループを成してあちこちの家々の軒下や物置小屋に張っているクモの巣を探してガヤガヤと「クモの巣掃除」に廻るのも遊びである。輪っかの張りが一重だとネットが弱いので、二重、三重に張る必要がある。粘着力が弱くなったり破れると、クモの巣を探して補修する。この「クモの巣輪っか」にはこんなことも出来る。輪っかの根元の針金を80~90度曲げると、幹から張り出した枝の下側に留まっている、捕虫網では捕り難いセミを簡単に絡ませて捕獲できる。水平になった輪っかを上下させるだけである。枝の上側に留まっているセミも捕れる。

捕ったセミはどうか。飼っても樹液を与えることができず両三日で死んでしまうので、飼うことはせずに、生きたまま放ってしまう。セミからは残酷だと責められるかもしれないが、偶に遊び道具にしてしまうことがあった。足が6本もあるのだから、歩くのは速いだろうなどと冗談を言いながら、翅をむしり取り地面を歩かせてみる。殆ど歩けないヨチヨチ状態のセミに徒競走させるのだ。遊んだ後、幹に戻してやる。翌日セミがどう

なっているか探してみても、多分鳥か何かの餌食になったのかどこにも見当たらない。また、飛ぶ鳥が水面を泳いだり潜ったりするのだから同じように飛ぶセミも泳ぐのではと考えた訳ではないが、池の水面に浮かべてみたりもした。翅を広げてバタつかせるが、翅が水面から離れることはなかったようだ。勿論、飛び立てない。セミの生態や体の機能とは無縁の地上歩行と水練をさせるとは、酷い扱いをしたものである。

(了)

登山靴について

(記 永澤)

ハイキングを始めた1970年代には「キャラバンシューズ」という靴が流行でした。

かたいゴム底にナイロン地のものです。

登山を再開するまで、これが「キャラバン社」のものとは知りませんでした。

現在は、多種多様な「登山靴」が、国内を問わず、外国製も多く販売されています。

当然ながら、「この山にはこの靴で」ということはありません。

靴の種類としては：

- ・トレッキングシューズ
- ・軽登山靴
- ・登山靴（縦走、冬山）

の三種の分類くらいでしょうか。

「履きやすさ」、「保温性」、「防水性」等を考えて、購入しましょう。

経験的には、当会の山行（日帰り）には「軽登山靴」がお薦めです。

靴丈は、くるぶしが隠れる程度（ミドルカット）が良いようです。



キャラバン、モンベル等の靴が、履きやすさ、値段の点からも適切かもしれません。

お店で「試し履き」をして、少し余裕のあるサイズを選びましょう。

<河西氏撮影の山岳写真>



秋の涸沢



冬の谷川岳



白馬杓子岳からの展望